

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委 員 称	茅野市博物館協議会専門部会		
開 催 日 時	平成 25 年 5 月 30 日（木） 午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分		
開 催 場 所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出 席 者	沖野部会長 北沢副部会長 小池委員 五味委員 茅野委員 名取委員 花里委員 浜委員 両角委員 鵜飼文化財課長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷係長博物館係長 柳川博物館係主査		
欠 席 者	田中委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍 聴 者 の 数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
鵜飼課長	1 開会（博物館係長） 市長もずいぶん気にしていれてくれ、さっそく市長の方へ報告を申し上げて、この中間報告の内容について承知をさせていただいたところだ。年度が改まって、委員会のほうも、東京理科大学の石森委員が定年退職となり、湖東小学校の岡本委員が異動となり、新しい委員を迎えることになり、議論を進めていただきたいと思う。 教育委員会としては、7 月くらいを目途に答申をいただきたいと考えている。		
五味委員	2 委員の委嘱 3 委員・職員の自己紹介 八ヶ岳総合博物館の存在は、3 年ほど前まで全く知らなかった。市民一般には、博物館の存在や、活動について知られていないのが実体である。存在ありきになっていないかなと思う。収支を考えると、開館から 25 年ということなので、何十億円という赤字になっているはずだ。博物館は、コストを掛けても重要だと考えられているから、存在してきているわけだろうが、費用的に考えればそういうことである。外から見る指標は、何のために建っているのか、ということが一番求められているところである。議論のフィールドがこの先どうするのかという議論になるということになると、その原点を考えないと、わけのわからないことをやっている可能性がある。例えば議員に質問されたら困ることがある。そのような状況にあるのだと思う。企業で言えば、事業再生のような状況になっているのではないかと思う。ベーシックで積み上げてきた大切なものとして見てもらうには、集客力がなければいけないし、ここから外へ出て行くということもしなければならぬ。そういう視点で、議論がどこかでされていけば、いいなと思うが、されていないとすれば、運営のあり方を考える場を作らない		

	と、まずいだらうなと思う。
	4 議事録の確認
	5 協議
	博物館協議会から
沖野部会長	<p>3月21日に茅野市博物館協議会があり、専門部会の中間報告を、私と北沢副会長が出席し、報告した。内容については前回に答申の素案を見ていただいたが、それを読んで紹介した。内容については質問があったと言うことはない。ほぼ、受け入れられたようであるが、2点ほど意見があった。</p> <p>最初から課題のあった天文系のことで、一元化して学校にあるものを中心に持ってくる、という話があったが、一元化とはどういう事かという質問があった。これは、まだ内容的には詰まっていないので、これから、議論していかなければならないが、博物館が中心となって、今ある機器を上手く使って、活用していきたいと答えた。このことをもっと検討して欲しいという意見があった。</p> <p>もう1点は、茅野地域は農業地域なので、農業に携わっている人が多いので、そのような人が博物館へどう関わったらいいのかという検討がなされているのかという質問があった。今まで、専門部会で農業系の議論はしてこなかったと思う。</p> <p>たしかに、この地域を支えているのは農業系の人たちで、このような人たちの生活上に、博物館が役に立つ内容も必要なのではないだろうか、ということで、今後の検討課題である。そういうことでは、茅野委員、農業系については今までどのように扱ってきたのか。</p>
茅野委員	<p>そういう意識はしてこなかった。どちらかというところと一般市民と子供という観点で活動してきた。</p>
沖野部会長	<p>まだ中間報告ということで、ハードの面でも特に意見はなかった。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>沖野部会長から、画像で展示ができるという話があったかと思う。</p>
沖野部会長	<p>内容についておかしいという話はなかった。五味委員が言ったように、事業戦略的なことは、これから検討する課題で、一つの方向性としては、学校教育をどのような形で組み込むのか、小さい子供の理科離れが起きていると言われているので、それに対して博物館がどのように対応できるのか、ということを考えていくことだと思う。補習的なことを博物館でできるのかどうか。</p>
名取委員	<p>市民の方たちにどのようにしたら身近な博物館になるのか、という話題が進んでいることを話した。</p>
沖野部会長	<p>具体的な課題をもう少し詰めていかないと、質問する方もしづらいなと思う。そのためには、博物館独自の企画運営委員会みたいなものを、早く作るということと、学校との連携ができるように、学校の方に博物館担当の先生を置くという組織ができればいいと思う。</p>
浜委員	<p>博物館協議会に何回か参加したが、委員が博物館を知らない。あまり参観していないので、学習会員証を、博物館協議会全員に買ってもらうか、</p>

名取委員	博物館から入館券を出してもらうなどして、委員はいつでも入館できるようにしてもらえればいいと思う。博物館について知らないの、運営に関する話は今まで出てこなかった。
沖野部会長	公民館で学習会のようなことをやる時に、博物館へ来て勉強会みたいなことが出来るのかと、質問した委員がいた。
	坂本養川は、農業と関係があるのではないか。ないわけではないが、そういう目で見えていないのではないか。これから、八ヶ岳総合博物館の存在を、いかに知らしめるのかどうか、利用してもらえるかが課題だ。五味委員が言ったような事業戦略も必要だと思うので、それを展示に生かせないかと思う。
	今後の予定
若宮八ヶ岳総合博物館長	今後の予定であるが、7月末には答申をまとめるということで、専門部会が動いている。3月21日には、その中間報告がなされたわけである。7月の答申に向けて、6月にできたら2回くらい、まとめに7月に1回ほど、あと3回ほどの検討で答申できればいいと考えている。答申がなされれば、8月の末には教育委員会に報告したい。
	資料で「今後の中間報告より」というところに抜粋したが、その中に、「検討と今後の課題」とあるが、それについて、検討していただけたらと思う。
	今年は25周年であるが、30周年記念には科学教育振興、それから展示がスタートできればいいと思う。場合によっては、それが早まる可能性もある。どのようになっても、すぐに対応できるようにしたい。すぐに対応するには、具体的な運営計画を検討していただき、答申に結びついていけたら、ありがたいと思う。
沖野部会長	展示の方については、色々アイデアが出ているので、そのアイデアを取り入れながら、特別展でテストをするということで、その点を大谷係長に説明してもらいたい。
大谷係長	展示についてはできるところから、ということが、中間報告であり、今年は25周年という事で、記念の特別展を開催する。特別展は「八ヶ岳で知る菌類の世界」を開催する。その中で、石森委員が言っていたように、配信ができればいいと考えていた。映像系の紹介が主になると思うが、すべて展示することは不可能だと思うので、デジタル機器を使って紹介していきたいと思う。今、スマートフォンというデジタル機器を持っている人が多いので、端末を持ってくれば、サービスが容易に受けられ、持って帰れるようにする。
沖野部会長	最初から完成形を求めなくても、やってみることが重要だ。展示型からタブレット型という一つのテストケースとして行いたい。
浜委員	教育長に会ったときに、答申を見て市長も大分関心を示したということで、今年は予算を増やしたということを教育長が言っていた。予算は増加したか。
大谷係長	25周年の特別展に関しては、予算が増加した。また、収蔵庫の整理でも増加している。岳麓文芸館で「俚謡の世界」という企画展を行うが、ここ

若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>でも増加している。</p> <p>企画運営会議の取り組みについては、博物館協議会の枠組みの中だと、議論ができないので、博物館に特化した形で、博物館の企画・運営について議論できる委員会はどうしたらいいかということを中心に内部で検討した。その結果、できれば、専門部会が博物館協議会に諮問したことを検討すると位置づけられているのと同様に、博物館協議会に博物館の企画運営について、どのようにしたらよいかということを検討していただく、その検討に企画運営の専門委員会を設け検討していただくと言うことで進めれば、茅野市の条例の中でできるだろうと思う。</p>
沖野部会長	<p>専門委員会は小規模で最初は始め、段々と委員を増やしていきたい。考えているのは、最初は専門部会の委員長・副委員長に、委員になっていただく。そのほか今、市民研究員の養成を始めているが、市民研究員の指導をしていただいている先生方に委員になっていただきたい。学校の先生にも加わっていただく。市民研究員の分野が広がっていけば、指導する先生にも加わっていただく。また、総合的な形で検討していくということで、歴史・民俗、あるいは、文芸の委員も加えていく形にしたい。</p> <p>新に八ヶ岳総合博物館専門委員会を作ると、条例・規則上に手を加えなければならなくなるので、博物館協議会の専門委員会にすると、現状でも設置できるということだ。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>出来ることから始めなさいということはこの専門部会で言われているので、すでに企画・運営の専門委員会は、そのような形で進めさせていただこうとしている。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>市民研究員養成講座の開催について</p> <p>今年は植物・陸水・きのこ（菌類）・野鳥・実験工作の5分野で始めている。それぞれに指導者をお願いしている。すでに発足して、発足式を行い、講演会を開催し、活動している。現在（5月30日）、登録者は36名で、それぞれのグループに所属して活動している。重複して参加している人もいるので、活動人数はもう少し増える。市民研究員の様子について、指導をお願いしている名取・花里・両角委員に説明してもらいたい。</p>
名取委員	<p>植物は5月11日に行ったが、14人が参加した。雨が降ったが小泉山を中心に、春の植物に慣れ親しむということから始めた。分類上のことをしっかりやりたいということで、宮川小学校の武井先生の写真に基づいて始めたが、雨が激しくなったので、急遽、博物館の研究室で、スライドを中心に武井先生が説明を行った。茅野市の白鳥先生にも、スライドで説明してもらった。春の植物に親しむということではできたと思う。</p>
花里委員	<p>参加した人たちの、関心の幅が広い。ほとんど分類に関して知識のない人から、素養のある詳しい人もいる。</p> <p>私の研究室で、ミジンコを培養しており、これを教材とした。一般の人は実際のミジンコを見たことのない人が多く、驚きをもって、見てもらえたと思う。その次の週に、実際に水田へ行き、水田の中のミジンコを採取することを行った。私も水田の調査はあまりやったことがなかったが、水田でおそらく採取されるであろうと思われたタマミジンコがおり、腸に植</p>

両角委員	<p>物プランクトンがあったので、エサを食べて、増加したということが見えてきた。今後とも定期的に水田で観察してみたいと思う。私の希望は、不思議なものをみて、研究的な視点でやることの面白さを知っていただきたいと思っている。そのためにはデータを定量的にとるということを考える必要があることを話した。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>私が市民研究員で期待しているのは、自分たちが観察したことに興味を持ち、新しい発見や経験し、その成果をパネルにして発表することがとても重要である。年何回か、発表の日を設けて、他所から来た人に見てもらおう。市民研究員もどういう観点で自然を観察するかとか、どのように話をするか興味を持ってもらえるとか、そのようなことの勉強にもなるだろうし、何回かそういうことをやって、自分で展示すると、家族が来たりとかすると、多くの人気が気軽に入ってくれるようになると思う。このようなところを重視して活動していけばいいと思う。</p> <p>野鳥は、現在開催している信州の野鳥展の行事に参加して、中村先生の話に興味深く聞いた。5月3日には、竜神池・尖石縄文考古館周辺の史跡公園で探鳥会を行った。同日の午後、写真展の撮影者の吉野俊幸先生のギャラリートークを聞いた。18日はポイントセンサスを行った。これは年4回、時期をずらしてデータをとる予定である。</p>
花里委員	<p>市民の皆さんにこのような体験をして、力を付けてもらって、その経験を博物館を舞台にして、外へ発揮していくという活動に結びつけていきたい。</p> <p>例えば、比較のために他の湖に行った場合、ボートを借りるとお金がかかるが、博物館として、かかる費用を検討してもらえないか。</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>用意できると思う。</p>
沖野部会長 鵜飼課長 大谷係長	<p>『広報ちの』に『市民研究員通信』を掲載することはできるか。できると思う。</p> <p>市民研究員の活動は、会員だけに限定していない。一般公開をしていこうということで、花里先生の研究室での活動について、一般の人も募集している。一般の人も参加できるようにして、広報で告知し、会員の増大を図る。</p>
名取委員	<p>植物も、全て一般の人も参加できるようにと考えていたが、交通手段や駐車場の問題があるので、研究員だけと縮小した。</p>
沖野部会長 五味委員	<p>ケースバイケースで行っていけばよい。</p> <p>子供たちをどういう風に参加させるかと言うことで、子供に考える力がついていないということが一番の問題だ。諏訪東京理科大学で「サイエンス夢合宿」というのを一泊二日で開催しており、10年以上やってきて、定着してきている。その一つに飛行機作りを企画して、その方面で活躍している市民を講師として呼んだ。長く飛ばすことや高く飛ばすことを考えるなど、サイエンスの一つの切り口になると思う。生涯学習センターの事業として開催している。客寄せパンダも必要だということで、大学では年1回しか行わないが、八ヶ岳総合博物館でも数回できないか。月1回、常設メニューにするとか、学校で開催するなどした方がよい。このような動きを検討した方がいいのではないか。</p>

はっきりと事態を掴んではないが、新しい子供たちの動きと言うことになる、グローバル化している世の中で、子供たちがどうなっていくのかということを考えると、ネットを使って、世界の人たちとコミュニケーションしていく力が問われていくと思う。言葉が通じない外国の人たちと、絵を使って交信ができるというものを NTT や東京大学の研究員が開発している。パソコンの使えるスペースを作れば、建屋をいじらなくてもできると思う。

八ヶ岳総合博物館のコアメンテナンスになるものが何かを据えていかなないといけないという思いがある。ネットを活用すれば、世界に向けて発信する拠点になると思う。初期投資は大したことが無く、その後の維持費も大したことが無い。諏訪東京理科大学の生涯学習センターとコラボする動きも可能かもしれない。これについてのご意見もいただける機会も設けて欲しい。

沖野部会長

国際的な博物館同士のネットワークはどうなっているのか。たとえば、この館は亜高山帯から上の寒い場所の植生などを扱っているが、そのようなものを知りたい場合、アクセスができるかどうか。

鶴飼課長

文化庁が国内の博物館のネットワーク作りを数年前に始めようという提案があった。国内の博物館のネットワークはまだ未開発だと思う。

大谷係長

植物だと、国内で国際登録しているハーバリウム（保管庫）は、国中でも数件しかないと記憶している。

沖野部会員

大学と提携すれば、可能なのではないか。

大谷係長

信州大学は、ハーバリウムの国際登録がされていたと思う。首都大学、京都大学、信州大学は、登録されているように記憶している。

沖野部会長

先程五味委員が言ったような、特殊な活動をしている市民もいると思うが、そういう人に登録してもらえれば、何かのイベントの時に、活動してもらえるのではないか。人材活用を博物館が中心になってやればいいのか。運営の中にどう活かしていくかという課題である。

次回は天文関係の一元化について協議したい。

その他、委員から特に意見等はなく、次回は天文関係の一元化を議題に審議を進めることで了承された

6 次回開催予定

次回 6月13日（木）午後6時～

次々回 6月28日（金）午後6時～

委員から特に質問、意見等はなく、次回日程について了承された。

閉会～午後8時 終了～